

公立大学法人岡山県立大学

第3期中期目標期間終了時に見込まれる
業務の実績に関する評価結果

令和5年7月

岡山県地方独立行政法人評価委員会

目 次

1	評価対象法人の概要	1
2	評価の実施根拠法	1
3	評価の対象	1
4	評価の趣旨及び評価者	2
5	評価方法の概要	
	(1) 評価基準	2
	(2) 評価の手法	2
6	評価結果	
	(1) 総合的な評定	3
	(2) 中期計画の各項目の評定	4
	第2 大学の教育研究等の質の向上	4
	第3 業務運営の改善及び効率化等	6
	(3) 評価結果等の業務運営への活用状況	6
	(4) 公立大学法人岡山県立大学に対する勧告等	7

1 評価対象法人の概要

- (1) 法人名等 総社市窪木111番地 公立大学法人岡山県立大学 理事長 沖 陽子
- (2) 設立年月日 平成19年4月1日
- (3) 設立団体 岡山県
- (4) 資本金の額 12,091,632,943円
- (5) 中期目標の期間 令和元年度から令和6年度まで
- (6) 目的及び業務

ア 目的

公立大学法人岡山県立大学は、人間を取り囲む様々な環境の中で調和のとれた発展を期し、地域の課題や社会の要請に的確に応えるため、「人間・社会・自然の関係性を重視する実学を創造し、地域に貢献する」ことを基本理念とする。

この理念に基づいて、学術の進展と教育の振興を図り、福祉の増進、文化の向上、地域産業の発展等に寄与する研究活動に取り組むとともに、知性と感性を育み、豊かな教養と深い専門性を備えて新しい時代を切り拓く知識と高度な技術を身につけた実践力のある人材を育成する。

イ 業務

(ア)岡山県立大学を設置し、これを運営すること。

(イ)すべての学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談など学生生活に関する相談その他の援助を行うこと。

(ウ)民間企業や試験研究機関等との間の共同研究や受託研究、技術指導等を実施するなど、企業等と連携して教育研究活動の推進に取り組むこと。

(エ)地域社会に貢献するため、公開講座を開設する等、地域住民に幅広く学習機会を提供するとともに、大学における研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。

(オ)前各号に掲げる業務を効果的かつ効率的に実施するため、附帯して必要となる関連業務を行うこと。

2 評価の実施根拠法

地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律（令和5年法律第58号）附則第3条第3項の規定によりなお従前の例によることとされた同法第5条の規定による改正前の地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第78条の2

3 評価の対象

第3期中期目標の期間（令和元年度から6年度まで）の終了時に見込まれる公立大学法人岡山県立大学の中期目標の達成状況

4 評価の趣旨及び評価者

(1) 評価の趣旨

地方独立行政法人法の規定に基づき、公立大学法人岡山県立大学（以下「県立大学」という。）が、十分な向上心のもと他の大学の模範となるような業務運営が行えるよう、業務の質の向上、業務運営の効率化、透明性の確保等について自主的、継続的な見直し及び改善を促すことを目的に、岡山県地方独立行政法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）が業務の実績評価を行う。

(2) 評価委員会（委員名順、50音順）

委員名	氏名	役職等
委員長	萩原邦章	萩原工業（株）相談役
委員	小田項一	税理士・公認会計士
委員	清水祐子	岡山県商工会議所女性会連合会副会長 （株）三松 専務取締役
専門委員 （大学関係）	秋山祐治	川崎医療短期大学学長 川崎医療福祉大学副学長
専門委員 （大学関係）	桑原和美	就実大学・就実短期大学学長

5 評価方法の概要

(1) 評価基準

公立大学法人岡山県立大学の業務の実績に関する評価の実施基準

(2) 評価の手法

公立大学法人岡山県立大学の自己評価の結果を活用する間接評価方式

6 評価結果

(1) 総合的な評定

評価委員会は、県立大学が「公立大学法人岡山県立大学の業務の実績に関する評価の実施基準」により自己評価し提出した「第3期中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績に関する報告書」の評価を行い、次のとおり評定した。

県立大学は、人間を取り囲む様々な環境の中で調和のとれた発展を期し、地域の課題や社会の要請に的確に応えるため、「人間・社会・自然の関係性を重視する実学を創造し、地域に貢献する」ことを基本理念とし、学術の進展と教育の振興を図り、福祉の増進、文化の向上、地域産業の発展等に寄与する研究活動に取り組むとともに、知性と感性を育み、豊かな教養と深い専門性を備えて新しい時代を切り拓く知識と高度な技術を身につけた実践力のある人材を育成することとしている。

第3期中期目標の期間中において、3つの基本方針（①社会を牽引する専門性、グローバルセンス及び人間力を有する、きらりと輝く地域リーダーを育成する ②来るべき高度知識基盤社会に貢献できるよう、基礎生産力のある学術研究を強化する ③社会のニーズにしなやかに適応するため、教育研究組織を見直し、スリムな大学運営システムを構築する）について、教職員が共有して中期目標の達成に向けて取り組み、確実に前進している様子が見られる。

大学として最も重要な業務の一つである人材の育成に関しては、その指標となる保健福祉学部及び保健福祉学研究科の国家試験の合格率について、看護師は令和元年度を除いて100%、保健師及び助産師は令和元年度から令和4年度まで100%を達成している。また、管理栄養士は令和元年度から令和4年度まで90%を超える合格率を達成しており、社会福祉士は国家試験対策など指導の充実を図り令和2年度から令和4年度まで毎年度合格率が上昇しており着実に成果を上げている。

学生の支援に関しては、教職員のための学生対応マニュアル、学生ごとにアドバイザー教員を決めて進路や学業などの相談を受けるアドバイザー制度、教員が学生の訪問時間帯を設けて研究室で授業等の疑問点や個人的な悩みなどの相談を受けるオフィスアワー制度などを活用して、きめ細やかな支援に努めるとともに、心身のサポートが必要な学生に対する相談業務に従事する学生支援コーディネーター制度を新設し、特に配慮を要する学生への支援の強化を図っている。

業務運営の改善に関しては、科学研究費や共同研究費等の外部資金の獲得により自己収入の増加を図るとともに、財務状況の検証や選択と集中による歳出の重点化に取り組み、財務内容の改善に努めている。

最小項目別評価の結果は、全52項目中、4点が8項目、3点が42項目、2点が2項目、1点が0項目と、評点平均値は3.1となっている。大項目別評価では、「第2 大学の教育研究等の質の向上」は最小項目33項目の平均3.2点で「中期目標を十二分に達成」、「第3 業務運営の改善及び効率化等」は19項目の平均2.9点で「中期目標を十分に達成」に当てはまる。

以上のことから、第3期中期目標の期間中は、新型コロナウイルス感染症の影響で業務が様々な制約を受ける中、第3期中期目標の実現に向けて創意工夫を凝らしながら積極的に取り組み、成果を上げていることから、最小項目別評価及び大項目別評価の結果も踏まえ、第3期中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績に関する評価結果については、中期目標を十分に達成する見込みであると評定する。

最後に、18歳人口の減少や東京一極集中など大学経営を取り巻く環境は年々厳しさを増し、また、ウィズコロナの考え方の下で経済社会活動の正常化が進められている中で、学長のリーダーシップの下、教職員が一丸となって機動的・戦略的な大学運営に一層取り組まれることを評価委員会として期待するもので

ある。

(2) 中期計画の各項目の評定

第2 大学の教育研究等の質の向上

ア 評定

中期目標を十二分に達成する見込み

イ 理由

新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中、中期目標の達成に向け、創意工夫を凝らしながら積極的に取り組み、成果を上げている。

ウ 評価した項目

① 項目数 33項目

② 特筆すべき項目

【教育】

- ・保健福祉学部では、その目標である国家試験合格率について、看護師では令和元年度を除き100%、助産師では令和元年度から令和4年度まで100%を達成している。また、管理栄養士では令和元年度から令和4年度まで90%を超える合格率を達成しており、社会福祉士では国家試験対策等により令和2年度から令和4年度まで毎年度合格率が上昇しており着実に成果を上げている。
- ・情報工学部では、企業と連携した専門教育の実施、データサイエンス、AIに対応した授業内容の整備、海外インターンシップの実施などカリキュラムの見直しを進め、教育内容の充実を図っている。
- ・デザイン学部では、ビジュアルデザイン学科、工芸工業デザイン学科、建築学科の3学科体制に再編しそれぞれの分野が持つ特徴を明確にし、低年次から専門教育を開始することでスペシャリストを育成する教育を推進している。
- ・保健福祉学研究科では、保健師国家試験合格率が令和元年度から令和4年度まで100%を達成するとともに、地域や海外と連携した専門教育の充実を図っている。
- ・情報系工学研究科では、継続的にカリキュラムの見直しを進め専門教育の充実を図るとともに、県内企業で構成される岡山県立大学協力会等と連携した企業説明会を開催し専門分野を生かした進路選択や就職活動の支援を行っている。
- ・デザイン学研究科では、令和4年度には定員充足率が65.6%となり改善傾向にあるものの、収容定員を割り込む状態が続いていることから、定員確保に向けた対策が必要である。
- ・学習成果を上げるための主体的・協働的な学び（アクティブ・ラーニング）の導入率が目標の80%を達成するなど、教育力の向上や教育方法の改善を進めることができている。

【学生の確保】

- ・一般前期入試での志願者倍率は目標を下回っているものの、18歳人口の減少による大学間競争の激化や多様化する入学者選抜に備えてアドミッション・高大連携センターを設置し、入試関連業務を統括する体制を強化するとともに、SNSを活用した情報発信や学生広報委員の発足など効果的な入試広報を行う仕組みを整備するなど志願者数の増加に向けた取組を推進している。

【学生の支援】

- ・アドバイザー制度やオフィスアワーを活用して学修支援に取り組むとともに、学生が授業を支援するスチューデント・アシスタント制度を令和5年度から運用開始することとしており、学修支援体制の充実・強化を図っている。
- ・学生相談室の周知、教職員研修の実施、教職員のための学生対応マニュアルの作成などにより学生の支援体制の強化を進めるとともに、学生支援コーディネーターを新設し、特に配慮を要する学生の支援体制の充実・強化を図っている。
- ・スロープの設置、多目的トイレの改修などハード面の配慮に加え、学生が障害のある学生を支援するピア・サポーターによる通学支援などソフト面の配慮にも取り組み、障害のある学生に合理的配慮が提供できている。
- ・キャリア・学生生活支援センターを設置し、キャリア形成や学生生活の支援を強化するとともに、岡山県立大学協力会等と連携して県内事業所の魅力を発信し認知度の向上を進め、目標を下回っている県内就職率の向上を図っている。
- ・長期インターンシップ参加者数は、コロナ禍の影響により目標を下回っているものの、受入先の充実や様々なツールを活用した学生への情報提供など、参加者の増加に向けた取組を進めている。

【研究】

- ・共同研究費等の獲得状況は、件数・金額ともに目標を下回っているものの、岡山県立大学の研究展示発表会であるOPUフォーラムや大学見本市であるイノベーションジャパンへの出展、研究シーズ集の発行など教員シーズの積極的な発信を行うとともに、教員が実施する企業等訪問やオンライン等による出前研究室（アクティブ・ラボ）を推進するなど、共同研究費等の獲得に向けた取組を推進している。
- ・学部の枠を超えた学際的研究として重点領域研究を設定し、多分野の教員の連携による研究の活性化を図っている。

【地域貢献】

- ・県内就職率は目標を下回っているものの、副専攻「吉備の杜」を創設し、学部から大学院まで一貫した地域連携教育体制を整備するとともに、学外との連携を強化しながら地域に愛着を持ち、地域の発展に寄与する意欲と能力を持つ学生の育成に取り組んでいる。
- ・大学コンソーシアム岡山へ参画する他大学との連携による地域貢献活動を推進するとともに、コミュニティキャンパスおかやま等による県内自治体等と連携した地域貢献事業を推進するなど県内各所と連携して地域貢献を積極的に展開している。

【グローバル化】

- ・英語教育について、TOEICの点数を単位認定要件に追加することで実践的な英語力の習得を図るとともに、英語力や学習意欲が高い学生を対象とした「Advanced class」を開設し教育効果や学生のモチベーションを向上させるための改善に取り組み、TOEIC平均点の1年次から2年次への伸び幅及びTOEIC550点以上取得した学生の1年次から2年次への伸び幅は目標を大きく上回っている。

第3 業務運営の改善及び効率化等

ア 評価

中期目標を十分に達成する見込み

イ 理由

新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中、中期目標の達成に向け、創意工夫を凝らしながら積極的に取り組む姿勢が見られる。

ウ 評価した項目

- ① 項目数 19項目
- ② 特筆すべき項目

【業務運営の改善及び効率化】

- ・内部統制システムの適切な運用、研修や人事評価による職員の能力向上、財務状況の検証などにより機動的かつ効率的な運営体制の構築に取り組んでいる。
- ・学内ネットワークシステムについて、中期計画終了時には更新が完了する見込みであるが、情報発信・共有のルールの見直しまでには至らない可能性がある。
- ・副専攻「吉備の杜」の授業科目をリカレント教育として学外履修者を積極的に募集し、多くの社会人が受講しており、科目の拡充を進めリカレント教育の充実を図っている。

【財務内容の改善】

- ・共同研究費等の獲得に向けて研究シーズの発信や出前研究室であるアクティブ・ラボの推進に取り組むとともに、科学研究費補助金の獲得に向けて計画書の作成を支援するなど、自己収入の増加に努めている。
- ・効果や効率性を踏まえ選択と集中による歳出の重点化や縮小・廃止を含めた事業内容の見直しに取り組んでいる。

【自己点検及び評価】

- ・大学案内とウェブサイトをリニューアルするとともに、PR動画を制作するなど計画的に広報ツールの強化・改善を行い、全国へ魅力を発信し認知度の向上を図っている。

【その他業務運営に関する目標】

- ・危機管理対応マニュアルに労働災害、ハラスメント等の項目を追加し運用を開始するとともに、新型コロナウイルス感染症対応マニュアルを作成し緊急性の高い危機に対応するなど安全・安心な教育研究環境の確保に努めている。

(3) 評価結果等の業務運営への活用状況

- ・当評価委員会の評価結果を学内の大学運営委員会、教育研究審議会、経営審議会及び役員会に報告し意見を聴くとともに、学内教職員で情報共有を図り

次年度の年度計画、自己評価、予算及び組織の見直しに活用した。

- ・評価結果を検証し、令和7年度からの第4期中期計画に反映させることを期待する。

(4) 公立大学法人岡山県立大学に対する勧告等

該当なし